



市役所玄関ホールに設置されているペレットストーブ

また、市内の木質バイオマス資源の需要拡大を図るため、薪ストーブとペレットストーブの導入にかかる補助金制度を開始している。前者が上限7.5万円、後者は5万円となっている。なお、ペレットに関しては市内に生産工場が設置されたこともあり、市内保育園にペレットボイラを導入するなど、需要拡大に努めている。

(3) 新エネルギーコミュニティビジネス展開に向けて

環境省『環境と経済の好循環モデル事業』の事業計画書作成時点で、「屋根貸し事業」のアイデアを盛り込むことになった。

民間施設で15年以上も屋根を借りる契約をするのは厳しいとの話もあり、公共施設の屋根の使用を検討した。しかし、公共施設の目的外使用の場合には、すぐに取り外せることが条件になる。太陽光発電では、このような考え方はなじまない。仮に、可能であっても10年というのがその時点での飯田市の考え方であった。そこで、河川の占用では30年という例もあることなどを研究し、20年という市長の決済を得るに至った。10年で契約更新し、2回をワンセットにする方法も考えたが、この方法であると市民出資は難しいなど、さまざまな検討を繰り返した結果である。

なお、行政だけで環境のまちづくりはできないことであり、地元で環境保全にかかわる事業者を立ち上げ、協働で推進体制ができたことは大きな成果である。

太陽光発電システムからの電力は飯田市がすべて買い取るという契約とした。買い取り価格は施設の電力料金の平均(基本料金を含む)である22円/kWhとした。同時に環境教育への活用を図っている。

3. おひさま進歩エネルギー有限会社（飯田市）

(1) 組織の概要

おひさま進歩エネルギー有限会社は、NPO「南信州おひさま進歩」の活動の構想等を具体化させるために設立された事業体であり、組織は、東京のエネルギーコンサルタン